

四 半 期 報 告 書

(第107期第2四半期)

自 2023年7月1日
至 2023年9月30日

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部【企業情報】	2
第1【企業の概況】	2
1【主要な経営指標等の推移】	2
2【事業の内容】	2
第2【事業の状況】	3
1【事業等のリスク】	3
2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3【経営上の重要な契約等】	5
第3【提出会社の状況】	6
1【株式等の状況】	6
2【役員の状況】	8
第4【経理の状況】	9
1【四半期連結財務諸表】	10
2【その他】	20
第二部【提出会社の保証会社等の情報】	21

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月10日

【四半期会計期間】 第107期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 株式会社長谷工コーポレーション

【英訳名】 HASEKO Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 池 上 一 夫

【本店の所在の場所】 東京都港区芝二丁目32番1号

【電話番号】 03(3456)3901

【事務連絡者氏名】 経営管理部門 財務・経理・IR担当
常務執行役員 濱 田 良 一

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝二丁目32番1号

【電話番号】 03(3456)3901

【事務連絡者氏名】 経営管理部門 財務・経理・IR担当
常務執行役員 濱 田 良 一

【縦覧に供する場所】 株式会社長谷工コーポレーション 関西
(大阪市中央区平野町一丁目5番7号)
株式会社長谷工コーポレーション 横浜支店
(横浜市西区高島二丁目19番3号(NX商事横浜ビル内))
株式会社長谷工コーポレーション 名古屋支店
(名古屋市中区栄四丁目1番8号(栄サンシティービル内))
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第106期 第2四半期連結 累計期間	第107期 第2四半期連結 累計期間	第106期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (百万円)	446,448	523,006	1,027,277
経常利益 (百万円)	36,569	43,260	88,265
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	24,734	28,703	59,326
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	35,733	41,222	63,316
純資産額 (百万円)	441,139	484,597	454,088
総資産額 (百万円)	1,049,467	1,178,565	1,198,105
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	90.01	105.24	216.10
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	42.0	41.1	37.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△39,687	43,987	△51,909
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△24,434	△23,828	△55,446
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△14,492	△42,723	50,785
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	188,017	187,075	208,333

回次	第106期 第2四半期連結 会計期間	第107期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	41.54	50.26

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 当社は「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」制度を導入しております。1株当たり四半期(当期)純利益金額の基礎となる期中平均株式数は、その計算において控除する自己株式に当該信託が保有する当社株式を含めております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における業績は、当社における完成工事高の増加及び不動産の取扱量増加により売上高は5,230億円(前年同期比17.1%増)、不動産利益の増加により営業利益は433億円(同14.8%増)、経常利益は433億円(同18.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は287億円(同16.0%増)の増収増益となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

	(単位：億円)							
	建設関連事業		不動産関連事業		サービス関連事業		海外関連事業	
売上高	3,824	(+531)	568	(+126)	1,264	(+232)	4	(+4)
営業利益	314	(-4)	102	(+29)	72	(+26)	△23	(-7)

()内は前年同期比増減額

① 建設関連事業

建築工事では、当社の土地情報収集力や商品企画力、施工品質や工期遵守に対する姿勢、効率的な生産体制等について事業主から評価を頂いている一方、受注時採算の悪化及び資材労務費の上昇等により、当期の完成工事総利益率は低下いたしました。

当社における分譲マンション新築工事の受注は、首都圏で200戸以上の大規模物件3件を含む28件、近畿圏・東海圏で200戸以上の大規模物件2件を含む10件、合計で38件となりました。また、分譲マンション以外の工事として、賃貸住宅等5件を受注いたしました。

当社の完成工事につきましては、賃貸物件等5件を含む計35件を竣工いたしました。

当セグメントにおいては、当社における完成工事高の増加及び建築受注用地の取扱量増加により売上高は3,824億円(前年同期比16.1%増)、完成工事総利益率の低下により営業利益は314億円(同1.4%減)の増収減益となりました。

② 不動産関連事業

分譲マンションの新規引渡し及びその他の不動産取扱量が増加したことにより、当セグメントにおいては、売上高は568億円(前年同期比28.6%増)、営業利益は102億円(同39.0%増)の増収増益となりました。

③ サービス関連事業

新築マンションの販売受託における引渡戸数、大規模修繕工事・インテリアリフォームにおける修繕工事の施工量、不動産流通仲介におけるリノベーション事業の販売戸数、分譲マンション管理におけるマンション専有部及びマンション共有部の工事施工量等は増加いたしました。

当セグメントにおいては、売上高は1,264億円(前年同期比22.5%増)、営業利益は72億円(同58.0%増)の増収増益となりました。

④ 海外関連事業

ハワイ州オアフ島において、商業施設の運営及び新規の戸建分譲事業の開発を進めております。当セグメントにおいては、商業施設の開業が間もないこともあり、売上高は4億円(前年同期は売上高0億円)、営業損失は23億円(前年同期は営業損失16億円)となりました。

当第2四半期連結会計期間末における連結総資産は、前連結会計年度末に比べ195億円減少し、1兆1,786億円となりました。これは主に売上債権及び販売用不動産が減少したこと等によるものであります。

連結総負債は、前連結会計年度末に比べ500億円減少し6,940億円となりました。これは主に短期借入金が増加したこと等によるものであります。

連結純資産は、前連結会計年度末に比べ305億円増加し4,846億円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したこと等によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ213億円減少し、1,871億円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期連結累計期間の397億円の支出超過と比較して837億円増加し、440億円の収入超過となりました。これは主に棚卸資産の減少に伴う資金増加39億円（前年同期は192億円の資金減少）及び売上債権の減少に伴う資金増加308億円（前年同期は152億円の資金増加）によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期連結累計期間の244億円の支出超過と比較して6億円増加し、238億円の支出超過となりました。これは主に有形及び無形固定資産の取得に伴う資金減少132億円（前年同期は147億円の資金減少）によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期連結累計期間の145億円の支出超過と比較して282億円減少し、427億円の支出超過となりました。これは主に借入金の調達及び返済に伴う資金減少315億円（前年同期は6億円の資金減少）によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費は、1,797百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	420,000,000
計	420,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	300,794,397	300,794,397	東京証券取引所 プライム市場	完全議決権株式であり、権 利内容に何ら限定のない当 社における標準となる株式 単元株式数は100株
計	300,794,397	300,794,397	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	—	300,794,397	—	57,500	—	7,500

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
いちごトラスト・ピーティーイー・ リミテッド (常任代理人 香港上海銀行東京支 店)	1 NORTH BRIDGE ROAD, 06-08 HIGH STREET CENTRE, SINGAPORE 179094 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	53,185	19.15
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	42,201	15.20
株式会社日本カストディ銀行(信託 口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	31,013	11.17
株式会社りそな銀行	大阪府中央区備後町2丁目2-1	12,609	4.54
長谷工グループ従業員持株会	東京都港区芝2丁目32-1	9,974	3.59
住友不動産株式会社	東京都新宿区西新宿2丁目4-1	9,916	3.57
J P モルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7-3	4,902	1.76
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	1776 HERITAGE DRIVE, NORTH QUINCY, MA 02171, U. S. A. (東京都港区港南2丁目15-1)	4,498	1.62
CEP LUX-ORBIS SICAV (常任代理人 シティバンク、エ ヌ・エイ東京支店)	31 Z. A. BOURMICH, L-8070 BERTRANGE, LUXEMBOURG (東京都新宿区新宿6丁目27-30)	4,016	1.44
長谷工コーポレーション東京取引先 持株会	東京都港区芝2丁目32-1	3,910	1.40
計	—	176,229	63.48

(注) 1 日本マスタートラスト信託銀行株式会社及び株式会社日本カストディ銀行が所有している株式は、全て信託業務に係る株式であります。

2 上記のほか、自己株式23,185千株があります。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 23,185,100	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 277,183,500	2,771,835	同上(注)1, 2, 4, 6
単元未満株式	普通株式 425,797	—	一単元(100株)未満の株式(注)1, 3, 5
発行済株式総数	300,794,397	—	—
総株主の議決権	—	2,771,835	—

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」には、(株)証券保管振替機構名義の株式1,500株(議決権の数15個)及び20株が含まれております。
- 2 「完全議決権株式(その他)」には、株主名簿上は各社名義となっているが実質的に所有していない相互保有株式が下記のとおり含まれております。
(株)長谷工コミュニティ 200株(議決権の数2個) (株)長谷エライブネット 100株(議決権の数1個)
- 3 「単元未満株式」には、株主名簿上は各社名義となっているが実質的に所有していない相互保有株式が下記のとおり含まれております。
(株)長谷工コミュニティ 80株 (株)長谷エライブネット 20株
- 4 「完全議決権株式(その他)」には、株主名簿上は当社名義となっているが実質的に所有していない株式200株(議決権の数2個)が含まれております。
- 5 「単元未満株式」には、株主名簿上は当社名義となっているが実質的に所有していない株式80株及び当社所有の自己株式84株が含まれております。
- 6 「完全議決権株式(その他)」には、「株式給付信託(BBT)」の信託財産として所有する当社株式731,300株(議決権の数7,313個)及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式4,097,800株(議決権の数40,978個)が含まれております。なお、「株式給付信託(BBT)」の議決権の数7,313個は、議決権不行使となっております。

② 【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)長谷工コーポレーション	東京都港区芝2丁目32-1	23,185,100	—	23,185,100	7.70
計	—	23,185,100	—	23,185,100	7.70

- (注) 「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式4,829,100株は上記自己株式に含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	206,644	189,121
受取手形・完成工事未収入金等	169,150	138,375
有価証券	4,613	867
未成工事支出金等	12,061	14,348
販売用不動産	216,966	184,034
不動産事業支出金	212,591	252,592
開発用不動産等	30,315	33,737
その他	16,929	21,321
貸倒引当金	△70	△120
流動資産合計	869,199	834,274
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	98,263	109,665
機械、運搬具及び工具器具備品	11,131	11,769
土地	116,645	116,617
リース資産	1,197	1,095
建設仮勘定	18,448	5,596
その他	22	40
減価償却累計額	△34,087	△34,975
有形固定資産合計	211,618	209,807
無形固定資産		
借地権	1,896	1,896
のれん	2,184	2,082
その他	6,083	6,705
無形固定資産合計	10,163	10,683
投資その他の資産		
投資有価証券	61,218	78,834
長期貸付金	3,692	3,787
退職給付に係る資産	18,407	19,251
繰延税金資産	10,751	9,041
その他	13,856	13,683
貸倒引当金	△799	△796
投資その他の資産合計	107,124	123,801
固定資産合計	328,906	344,290
資産合計	1,198,105	1,178,565

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	93,246	※2 88,633
電子記録債務	63,896	※2 64,314
短期借入金	31,500	-
1年内返済予定の長期借入金	10,000	20,000
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
未払法人税等	19,152	12,744
未成工事受入金	28,631	32,397
不動産事業受入金	27,245	37,284
完成工事補償引当金	4,351	3,764
工事損失引当金	506	457
賞与引当金	5,515	5,134
役員賞与引当金	180	-
その他	74,580	52,306
流動負債合計	378,802	337,033
固定負債		
社債	100,000	100,000
長期借入金	230,000	220,000
訴訟損失引当金	2,819	3,086
株式給付引当金	4,059	4,109
役員株式給付引当金	491	433
退職給付に係る負債	1,630	1,704
繰延税金負債	17	12
その他	26,199	27,591
固定負債合計	365,215	356,935
負債合計	744,016	693,968
純資産の部		
株主資本		
資本金	57,500	57,500
資本剰余金	7,373	7,373
利益剰余金	427,878	445,477
自己株式	△37,630	△37,239
株主資本合計	455,121	473,111
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	711	4,327
為替換算調整勘定	5,241	13,668
退職給付に係る調整累計額	△6,989	△6,514
その他の包括利益累計額合計	△1,037	11,481
非支配株主持分	4	5
純資産合計	454,088	484,597
負債純資産合計	1,198,105	1,178,565

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高		
完成工事高	229,970	261,867
設計監理売上高	3,810	3,638
賃貸管理収入	42,021	44,714
不動産売上高	161,635	203,298
その他の事業収入	9,013	9,489
売上高合計	446,448	523,006
売上原価		
完成工事原価	190,729	222,247
設計監理売上原価	1,705	1,763
賃貸管理費用	32,671	34,458
不動産売上原価	142,081	177,556
その他の事業費用	7,345	7,766
売上原価合計	374,532	443,791
売上総利益		
完成工事総利益	39,240	39,620
設計監理売上総利益	2,105	1,876
賃貸管理総利益	9,350	10,256
不動産売上総利益	19,554	25,741
その他の事業総利益	1,668	1,722
売上総利益合計	71,916	79,215
販売費及び一般管理費	※ 34,212	※ 35,939
営業利益	37,704	43,276
営業外収益		
受取利息	40	108
受取配当金	206	250
為替差益	157	379
その他	663	722
営業外収益合計	1,066	1,459
営業外費用		
支払利息	863	1,192
持分法による投資損失	0	184
その他	1,338	99
営業外費用合計	2,202	1,475
経常利益	36,569	43,260

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
特別利益		
固定資産売却益	8	1
補助金収入	45	-
資産除去債務戻入益	-	4
特別利益合計	53	5
特別損失		
固定資産処分損	31	12
固定資産圧縮損	41	-
特別損失合計	71	12
税金等調整前四半期純利益	36,551	43,253
法人税、住民税及び事業税	11,201	13,847
法人税等調整額	616	702
法人税等合計	11,817	14,549
四半期純利益	24,733	28,704
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	24,734	28,703

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	24,733	28,704
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△282	3,616
為替換算調整勘定	10,869	8,427
退職給付に係る調整額	413	475
その他の包括利益合計	11,000	12,518
四半期包括利益	35,733	41,222
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	35,734	41,221
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	1

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	36,551	43,253
減価償却費	2,972	3,531
のれん償却額	102	102
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	31	48
訴訟損失引当金の増減額 (△は減少)	△0	△0
受取利息及び受取配当金	△247	△358
支払利息	863	1,192
持分法による投資損益 (△は益)	0	184
固定資産処分損益 (△は益)	22	11
棚卸資産評価損	-	19
売上債権の増減額 (△は増加)	15,162	30,830
未成工事支出金等の増減額 (△は増加)	△2,172	△2,287
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△19,220	3,898
仕入債務の増減額 (△は減少)	△11,922	△4,234
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	1,287	3,767
預り金の増減額 (△は減少)	△31,667	△16,476
その他	△13,242	1,377
小計	△21,481	64,856
利息及び配当金の受取額	238	350
利息の支払額	△855	△1,191
法人税等の支払額	△17,589	△20,028
営業活動によるキャッシュ・フロー	△39,687	43,987
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△14,695	△13,182
有形及び無形固定資産の売却による収入	58	35
投資有価証券の取得による支出	△8,560	△10,493
投資有価証券の売却及び払戻による収入	19	296
貸付けによる支出	△7,995	△9,766
貸付金の回収による収入	6,764	9,486
敷金及び保証金の差入による支出	△462	△461
敷金及び保証金の回収による収入	496	285
その他	△59	△27
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,434	△23,828
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	-	△31,500
長期借入金の返済による支出	△636	-
自己株式の取得による支出	△2	△2
ローン付帯費用	△1,307	△65
配当金の支払額	△12,493	△11,104
その他	△54	△52
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14,492	△42,723
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,766	1,306
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△76,847	△21,258
現金及び現金同等物の期首残高	264,864	208,333
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 188,017	※ 187,075

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務(保証債務等)

保証債務 下記のとおり債務保証を行っております。

(銀行等借入債務)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)	
提携住宅ローン利用顧客	1,374件	49,144百万円	提携住宅ローン利用顧客	927件 33,822百万円
不動産等購入ローン利用顧客	2件	26	不動産等購入ローン利用顧客	2件 23
有料老人ホーム土地建物所有者	1件	256	有料老人ホーム土地建物所有者	1件 244
計		49,425		34,089

※2 四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債務

四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債務の会計処理については、手形交換日等をもって決済処理しております。なお、当第2四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債務が、当四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
支払手形		79 百万円
電子記録債務		3,149

3 当社は、運転資金の安定的かつ機動的な調達を行うため、取引金融機関5行の協調融資方式によるコミットメントライン契約を締結しております。

この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
コミットメントライン 契約の総額	63,000百万円	63,000百万円
借入実行残高	31,500	—
差引額	31,500	63,000

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
従業員給料手当	10,810百万円	11,399百万円
賞与引当金繰入額	1,798	1,807
株式給付引当金繰入額	157	166
役員株式給付引当金繰入額	52	51
退職給付費用	557	521
のれん償却額	102	102

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金預金勘定	190,347百万円	189,121百万円
保険代理店口預金	△730	△436
有価証券勘定に含まれる譲渡性預金	—	144
拘束性預金	△1,600	△1,755
現金及び現金同等物	188,017	187,075

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	12,493	45.00	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式に対する配当金133百万円が含まれております。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月10日 取締役会	普通株式	11,104	40.00	2022年9月30日	2022年12月6日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式に対する配当金112百万円が含まれております。

II 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	11,104	40.00	2023年3月31日	2023年6月30日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式に対する配当金204百万円が含まれております。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年11月10日 取締役会	普通株式	11,104	40.00	2023年9月30日	2023年12月6日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式に対する配当金193百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	建設 関連事業	不動産 関連事業	サービス 関連事業	海外 関連事業			
売上高							
外部顧客への売上高	303,896	43,942	98,609	1	446,448	—	446,448
セグメント間の 内部売上高又は振替高	25,381	228	4,517	—	30,125	△30,125	—
計	329,277	44,169	103,126	1	476,574	△30,125	446,448
セグメント利益又は セグメント損失(△)	31,844	7,306	4,568	△1,606	42,113	△4,408	37,704

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△4,408百万円には、セグメント間取引消去△2,093百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,315百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	建設 関連事業	不動産 関連事業	サービス 関連事業	海外 関連事業			
売上高							
外部顧客への売上高	345,615	56,565	120,443	382	523,006	—	523,006
セグメント間の 内部売上高又は振替高	36,766	245	5,917	—	42,929	△42,929	—
計	382,381	56,811	126,361	382	565,934	△42,929	523,006
セグメント利益又は セグメント損失(△)	31,412	10,159	7,218	△2,271	46,518	△3,242	43,276

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△3,242百万円には、セグメント間取引消去△1,056百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,186百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	建設 関連事業	不動産 関連事業	サービス 関連事業	海外 関連事業	
売上高					
建設工事等	200,007	—	—	—	200,007
設計監理	3,810	—	—	—	3,810
不動産販売、分譲等	100,008	30,758	—	—	130,766
大規模修繕・内装工事等	—	—	29,961	—	29,961
マンション建物管理、 マンション賃貸管理等	—	—	32,036	—	32,036
分譲マンション販売受託、 流通仲介・リノベーション等	—	—	21,419	—	21,419
その他	7	—	1,796	1	1,804
顧客との契約から生じる収益	303,832	30,758	85,212	1	419,803
その他の収益	64	13,184	13,397	—	26,645
外部顧客への売上高	303,896	43,942	98,609	1	446,448

(注) 「その他の収益」には、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等及び「特別目的会社を活用した不動産の流動化に係る譲渡人の会計処理に関する実務指針」(会計制度委員会報告第15号)に基づく不動産売上が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	建設 関連事業	不動産 関連事業	サービス 関連事業	海外 関連事業	
売上高					
建設工事等	229,375	—	—	—	229,375
設計監理	3,638	—	—	—	3,638
不動産販売、分譲等	108,038	52,008	—	—	160,047
大規模修繕・内装工事等	—	—	32,488	—	32,488
マンション建物管理、 マンション賃貸管理等	—	—	34,006	—	34,006
分譲マンション販売受託、 流通仲介・リノベーション等	—	—	37,783	—	37,783
その他	—	—	1,711	382	2,092
顧客との契約から生じる収益	341,052	52,008	105,987	382	499,429
その他の収益	4,563	4,557	14,456	—	23,576
外部顧客への売上高	345,615	56,565	120,443	382	523,006

(注) 「その他の収益」には、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等及び「特別目的会社を活用した不動産の流動化に係る譲渡人の会計処理に関する実務指針」(会計制度委員会報告第15号)に基づく不動産売上が含まれております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	90円01銭	105円24銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	24,734	28,703
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	24,734	28,703
普通株式の期中平均株式数(千株)	274,792	272,728

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 記載株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

3. 「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式を、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。当該自己株式の期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間26,002千株、当第2四半期連結累計期間28,065千株であり、このうち「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式の期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間は2,819千株、当第2四半期連結累計期間4,880千株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第107期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)中間配当について、2023年11月10日開催の取締役会において、2023年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|---------------------|------------|
| ① 中間配当金の総額 | 11,104百万円 |
| ② 1株当たりの額 | 40円00銭 |
| ③ 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 2023年12月6日 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月10日

株式会社長谷工コーポレーション
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 裕 司

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齋藤 祐 暢

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉田 靖 史

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社長谷工コーポレーションの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社長谷工コーポレーション及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。